

循環器内科

1 スタッフ

前田裕史	副院長兼内科部長、S60 卒、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医
小原健一	内科科長、H9 卒、日本循環器学会専門医
中西啓太	内科科長、H10 卒、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医
羽鳥光晴	内科科長、H11 卒、日本循環器学会専門医
大谷暢史	H23 卒

2 入院患者

総数 732 名 (昨年比 +5)

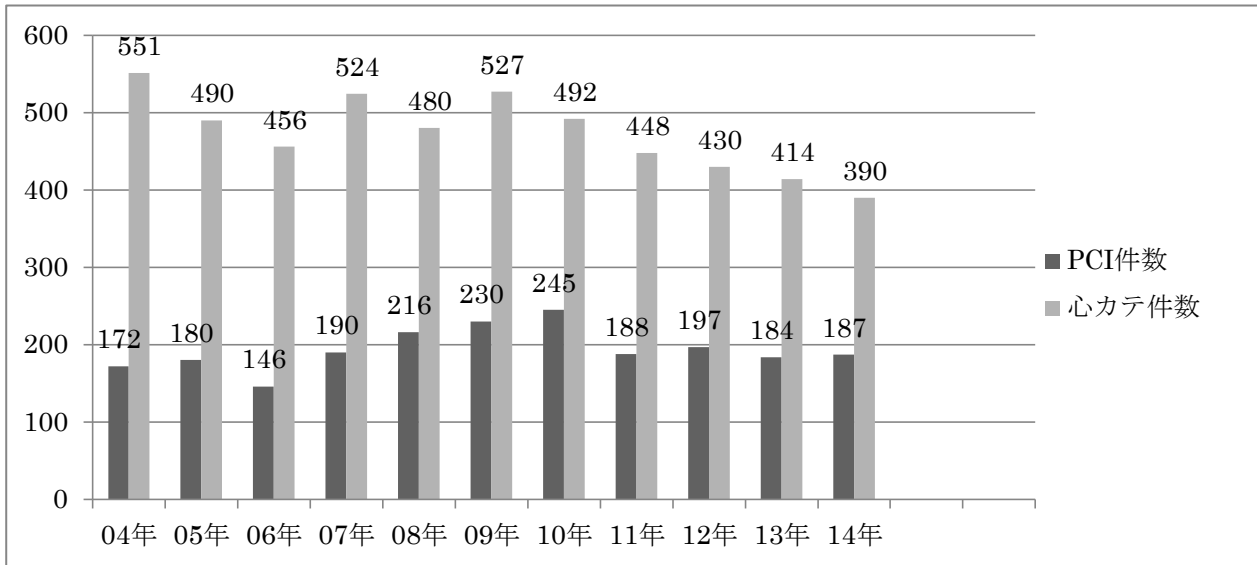
(内訳)

狭心症	163 名 (昨年比 +14)
急性心筋梗塞	77 名 (昨年比 -1) (院内死亡率 6.4%)
弁膜症	38 名
心筋症	22 名
うっ血性心不全	222 名 (昨年比 +4)
不整脈疾患	64 名
閉塞性動脈硬化症	13 名
肺炎	32 名
糖尿病	22 名
感染性心内膜炎	2 名
肺塞栓、肺高血圧	7 名
がん	9 名
老衰	12 名
その他	49 名 (脳梗塞、感染症など)

循環器の担当した内科患者数は急性心筋梗塞、狭心症、心不全を中心に昨年とほぼ同数でした。肺炎などの感染症や末期癌、老衰の患者様もほぼ昨年同様でした。うっ血性心不全の患者様の平均年齢が徐々に高くなっています。

3 心臓、血管カテーテル検査

心臓・血管カテーテル検査総件数は、昨年度に引き続き減少しましたが、インターベンションの件数は若干増加し、末梢血管形成術も若干増加しました。



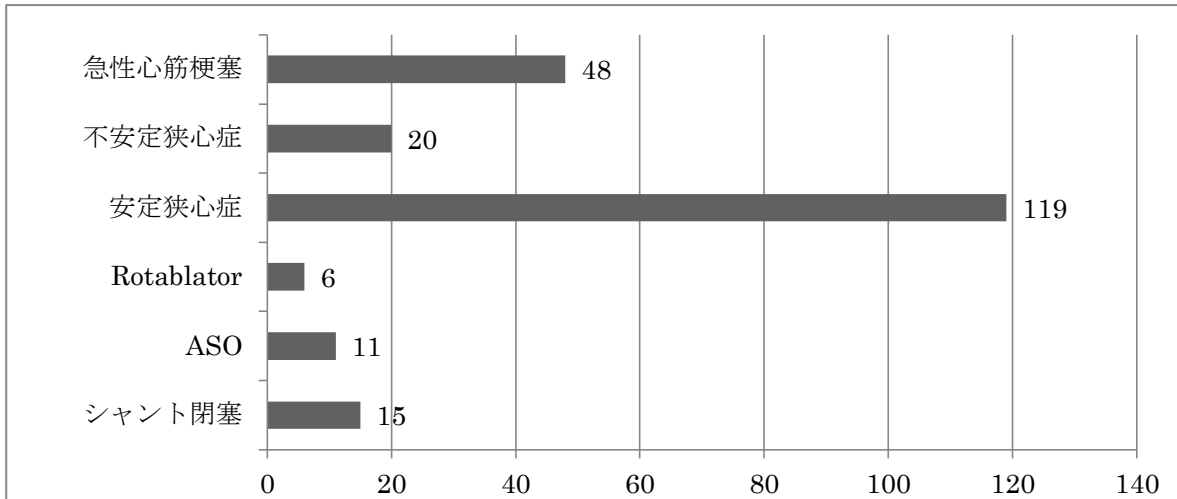
(内訳)

冠動脈造影	388 例
左室造影	132 例
右心カテーテル検査	68 例
電気生理検査(冠動脈造影同時施行も含む)	0 例
体外式ペースメーカー(PCI 時を除く)	16 例
冠動脈形成術	187 例
末梢動脈形成術	26 例
経皮的動脈弁バルーン拡張術	1 例

4 カテーテルインターベンション成績

2014年の冠動脈インターベンション件数は187例で前年より若干の増加、末梢血管のインターベンション件数も、若干増加し、26件でした。

対象疾患



早期成績

冠動脈形成術初期成功率 185/187 例 (99%)

不成功例の2例はガイドワイヤーやデバイスの不通過によるものでした。慢性閉塞症例のPCIが増えており、22例が血行再建に成功(成功率92%)しています。

合併症

Q波急性心筋梗塞	0/184 症例
緊急冠動脈バイパス術	0/184 症例
死亡	5/184 症例
急性冠閉塞(SAT)	0/184 症例
nonQ波心筋梗塞(側枝閉塞)	1/184 症例
穿刺部血腫・感染	2/184 症例

死亡症例はいずれも、急性心筋梗塞で、補助循環を用いて治療を行い、急性期に再灌流に成功しましたが、救命できませんでした。

長期成績

確認のための冠動脈造影検査を行わない症例が増えたこと、またPCIを行ってから数年後に再狭窄を認める例もあり、追跡調査は困難となっています。再狭窄に対しての再治療症例数は、本年度6例であり、治療を要する再狭窄症例は10%以下と考えられます。